

## 「光り輝く聖なる島」 スリランカ概況



在スリランカ日本大使館 一等書記官 さとう たけふみ  
佐藤 岳文

### 1. はじめに

九州と四国を合わせたのと同じくらいの面積の島に約2000万人が暮らすこの国に私が赴任して2年半ほどになります。

スリランカは、セイロンティー、カレー、世界遺産、宝石、アーユルヴェーダ、ビーチリゾートなど豊富な観光資源を持ち、最近では日本のマスコミで取り上げられることも増えつつあるようですが、知名度はまだまだといったところです。

本稿がこの国への皆様の理解を深め、興味を持っていただく一助になれば幸いです。

### 2. 概要

スリランカと聞いてシンハラ人とタミル人の紛争を思い浮かべる方も多いかと思います。この国内紛争は2009年まで26年間にわたり続き、北部・東部地域に行けば、開発の遅れ等から現在もその影響を感じることがありますが、その後テロ等が再発したことはなく、今後もその可能性は極めて低いと見られています。治安はよく、外国人が生活する上で危険を感じることはほとんどありません。

2018年3月に、仏教徒とイスラム教徒との衝突拡大を防ぐため、紛争終結後初となる非常事態宣言が発令され、ヘイトスピーチ等の流布を防ぐためにソーシャルメディアへの接続が規制されるという出来事がありました。しかしこれも、その

後は双方の対立が表面化する事案は起きていません。

政治の面では、2015年に発足した現在の連立政権では内部で不和が生じ、前大統領の政党が地方選挙で躍進するなど、先の展望が見えにくい状況が続いています。2020年には大統領選挙と総選挙が予定されており、与野党の鞘当てが始まっています。

経済的には、一人当たりGDPが3,835ドル、成長率は4.4%と、持続的な成長を遂げています。これは、間もなく中国やタイ等と同じ「中進国」という分類に達する水準です。一方で、政府財政には対外債務の負担が重くのしかかっており、その影響で南部のハンバントタ港の運営権を99年間中国に貸与することになった件は日本でも大きく報じられました。なお、証券会社が9月に発表した分析では、通貨危機のリスクが最も大きい国としてスリランカが挙げられましたが、スリランカ中央銀行は数値の誤りだとしてこの分析を否定しています。

### 3. 国民性

われわれ日本人が南国の人々に対して持つような、人なつづくて陽気でのんびりしていて、というイメージは、スリランカ人にも当てはまります。ただ、彼らにはそれだけではない一面もあります。

スリランカは、仏教・ヒンズー教・イスラム教・キリスト教が



写真1. コロンボ市の街並み。面積・人口ともに杉並区と同程度



■写真2. 北部・東部の風景。郊外に一歩出ると、農地あるいはジャングル、高地では茶畑が延々と続く

混在する多宗教多民族国家であり、ポルトガル・スペイン・イギリスに統治された歴史を持ち、使用言語もシンハラ語・タミル語・英語の3つという、いささか複雑な背景を持つ国です。

そんな多様性を持つスリランカ人を、数年滞在しただけの私が論じるのは甚だお門違いですが、ここではあくまでご参考まで、周りから聞いた意見も踏まえつつ、私が思うスリランカ人の印象を述べさせていただきます。

## ・おとなしく、真面目

スリランカ人は「おとなしい」「優しい」「まじめ」といった意見がしばしば聞かれます。おとなりのインドから来た人には特にそういった印象が強いようです。信心深い小乗仏教の国であることに加え、義務教育が無償であり識字率も9割を超えるという高い教育水準が、そういった気質に関係しているのかもしれませんが。

大まかな指示では思うように動いてくれないが、マニュアルで細かく決められた作業では凄いパフォーマンスを発揮することがあるという話を聞くこともあります。

## ・プライドが高い

これもスリランカ人の特徴としてよく言われる点です。プライドの高さ故に、頼みごとに対して「できない」と言わず、失敗を認めないなどです。何か質問したらすらすらと答えてく

れ、それが知ったかぶりだったと後になって気づくという経験が多々あります。それでも彼らに悪気は無く、そして憎めないのも特徴です。

ちなみにスリランカには、自殺率の世界ランキングで常に上位を推移しているという不名誉な記録があります。一説によると、鬱など内面的な理由ではなく、対外的な意思表示であるケースが多いそうです。そういった自我の強さも、プライドの高さと関係しているのではないかと思ったりします。

## ・親日

1952年のサンフランシスコ会議で、セイロン代表であるジャヤワルダナ元大統領（当時蔵相）が、「憎しみは憎しみによってやまず、愛によってやむ」という仏陀の言葉を引用して対日賠償請求権を放棄する旨の演説をしました。これは日本とスリランカの親密な関係を象徴する有名なエピソードです。

同じ仏教国であること、日本語とシンハラ語の構造が似ていること、道路を走るのがほとんど日本車であることなど、理由は色々と言われていますが、スリランカは大の親日国として知られています。

ちなみに、スリランカは「おしん」が大ヒットした国の一つであり、こちらが日本人と知るや、すぐにおしんの話をしてきます。



## 4. 情報通信

### ・ICT普及度

ITUによる各国のICT普及度を示すICT Development Index\*を見ても、スリランカは176か国中117位という結果でした（2017年現在。1位アイスランド、10位日本）。

内容を見ていくと、スリランカが高く評価されているのは、携帯電話普及率、ユーザーあたりのインターネット接続速度、初等・中等教育の環境といった指標です。逆に、固定電話の普及率、ネット・コンピュータ世帯普及率、ブロードバンド加入率等は、世界に後れを取っています。現地で生活する立場から見ても、あまり違和感のない、妥当な評価だと思います。

### ・放送

日本の無償資金協力によってルパバヒニ（シンハラ語でテレビの意）国営放送局が1982年に放送を開始しました。業界の人に限らず、同局の設立が日本の支援によるものだと知るスリランカ人は多くいます。当時供与された放送機材は、さすがにだいぶ老朽化していますが35年以上経った今でも大切に使われています。2014年には地上デジタル放送整備のための円借款供与に合意し、事業の実施に向けた協議が進められています。

スリランカでは、テレビ・ラジオともに放送局数が飽和状態であり、電波干渉が頻発するなど混沌とした状況が続いています。これに対し、最近、大手放送局が業界団体を立ち上げ、倫理規定の導入を議論するなど、ようやく互いに強調する動きを見せはじめています。

### ・電気通信

かつての国営通信事業者であるスリランカテレコムは1996年に民営化され、翌97年に日本のNTTがその株式を取得しました。この資本関係は2008年まで続き、その間両国間で活発な人材交流、技術移転がありました。また、電話交換機の整備にはODAによる支援も行われました。当時は組織改

編への反発や紛争の影響などもあり様々な苦勞があったようですが、日本による支援の甲斐あって、本件はスリランカにおける民営化の成功例として認識されています。

ITUの調査によると、スリランカは通信料金が世界で最も安い国の一つだそうです。今年、スリランカ政府は携帯通話料金の下限価格の撤廃を決定し、これにより更に料金の低価格化が進む可能性があります。ユーザーとしてはありがたい限りなのですが、市場規模に対して携帯通信事業者が5社もあるのは多すぎるとして過当競争を懸念する声もあります。

### ・ロータスタワー

空港からコロombo市内に向かう正面に見えてくるのが、現在建設中のロータスタワーです。高さは350mと東京タワーとさほど変わりませんが、まだ高層ビルの少ないコロomboの街並みではひときわ存在感を放っています。完成後は、テレビ・ラジオ放送、通信事業者の送受信塔として使用されるほか、展望台や回転レストラン、ショッピングモール等が併設される予定です。

2012年に竣工し、当初2015年に完成する予定だったこのタワーは、土地所有権の問題等により工事が遅れ、2018年現在も工事が続いています。関係者は「もうすぐ完成」と言っていますが、その時期も聞くたびに変わっています。

## 5. おわりに

スリランカは、南アジア地域においてシンガポールのような物流・経済のハブとなることを目指しています。コロomboでは沖合の埋め立て開発による「ポートシティ」をはじめ、大型の建設があちこちで進んでいます。

まだまだ語りつくせない奥深さを持つスリランカに皆様も是非お越しいただき、日ス友好の輪を広げていただければ幸いです。行ったことがない方に来ていただきたいのはもちろんのこと、行ったことがある方も、その目覚ましい発展ぶりに驚かれることと思います。

\* [https://www.ituaj.jp/?page\\_id=7858](https://www.ituaj.jp/?page_id=7858)